

今年度の伊予地域家庭教育支援チームの主な活動

月	事業名等(講演 連続講座 情報誌発行 ★定期相談)
6	なかむら保育所での講演(10日)[春田アドバイザー] 市P連役員研修会での講演(13日)[藤川チーム員] うへの保育所での講演(25日)[岩倉チームリーダー]
7	港南中学校地区別懇談会(1日)指導助言[田中アドバイザー] 港南中学校地区別懇談会(4日)指導助言[春田アドバイザー] 伊予地域家庭教育情報誌「ほのぼの」第1号発行(16日) 北山崎小学校での講演(22日)[渡部チーム員] 「父親の家庭教育参加を考える集い」(26・27日) ～リーダーキャンプ～参加 ★家庭教育定期相談(上野地区)(30日)
9	★家庭教育定期相談(中山地区)(4日) 市愛護連役員研修会での講演(8日)[近藤チーム員] 家庭教育連続講座1回目(27日)講師[玉井チーム員]
10	中山小学校での講演(3日)[宇都宮アドバイザー] 伊予地域家庭教育情報誌「ほのぼの」第2号発行(24日) 家庭教育連続講座2回目(11日)講師[近藤チーム員] 松山市立湯山小学校での講演(21日)[藤川チーム員] 家庭教育連続講座3回目(25日)講師[山口アドバイザー]
11	★家庭教育定期相談(中村地区)(4日) 家庭教育連続講座4回目(15日)講師[岩倉チームリーダー]
12	大平地区での講演(3日)[藤田チーム員] からたち幼稚園での講演(10日)[玉井チーム員]
1	★家庭教育定期相談(郡中地区)(16日) 翠小学校での講演(22日)[藤川チーム員]
2	北山崎小学校での講演(10日)[近藤チーム員] ★家庭教育定期相談(双海地区)(18日) 松山市立三津浜小学校での講演(24日)[玉井チーム員] 伊予地域家庭教育情報誌「ほのぼの」第3号発行(25日)

「伊予地域家庭教育情報誌」 ほのぼの 第3号



(家庭教育連続講座 閉講式 H20.11.15)
チームリーダーから、一人一人に修了証が手渡されました。(於：伊予市中央公民館)



～家庭教育支援事業をふりかえって～



チームリーダー
岩倉 泰子

家庭教育支援事業の実施に当たりまして、ご参集いただきました子育て中の皆様、ご協力いただきました伊予市教育委員会の皆様、また、支援チーム員の皆様、ありがとうございました。心からお礼申し上げます。

様々な子育て支援が考えられる中で、今回は「保護者に対する支援」を中心に取り組みました。子育て中の方が地域社会と関わりをもち、子育てを互いに支え合い、それによって学び合い、育ち合っていくよい機会であったと思います。

これからは、情報が届きにくい人たちのための積極的な情報発信や、この事業を安定的に運営するための人材の確保が必要であろうと思います。さらに、学校・保護者・地域社会との連携が強く求められ、今後の展開に期待が寄せられます。来年度も少し形態が変わりますが事業は継続しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



受講者からの感想

子育てのポイントを教えていただきました。もう少し早く聞きたかった話も中にはありましたが、今からでも役立てていきたいと思えます。



徐々に子育ての講座が聞けて、改めて小さなことで見過ごしていることでも大切なことがあると確認できました。



「子育てはこうするべきだ」というのではなく、いろいろなやり方や考え方があり、こうしてダメだったらああしてみようという前向きに考えて、かつその時その時を一生懸命かかわっていきたくて思いました。



家庭教育支援チーム

家庭教育・子育てで悩んでいます!



7月に伊予地域の所・園・校で行ったアンケートに書かれていた悩みをまとめてさせていただきます。たくさんの方がいろいろな悩みをかかえておられるようです。

- 幼稚園**
 - 子育て親のちがう両親と主人との間で子育てに悩んでいる。
 - とりかかりの遅い子どもの躰をどのようにすればよいか。
 - 家事優先で子どもと関わる時間が少ない。
 - 我慢する気持ちや集中力を養うにはどうすればよいか。
 - 習い事の有無は、子どもの成長(性格・学力)に影響があるのだろうか。
 - 他県より嫁ぎ、4世代が同居。相談相手もない。
 - 幼稚園は元気に遊ぶだけでよいのか。
- 小学校**
 - 父親の子育て参加を望む。
 - 近所の人とあまり話ができない。男の子なので聞きたいことを話してくれない。
 - 教育が家庭の経済力に比例していることがつらい。
 - 共働きであることに疲れており、愛情ある家庭が築けない。
 - 仕事をやめると生活できない。
 - どうすれば心にゆとりを持つことができるのだろうか。
- 中学校**
 - 子どもの進路がどうなるか心配。
 - 友達選びと小遣いの与え方。
 - 共働きのため子ども、夫と話し合う時間を持って不安。
 - 母子家庭で経済的に塾は無理。躰が不十分。
 - 父親との関わりがうまくいかない。
 - 友達関係がうまくいっていないようだが…。
 - ゲームや携帯に熱中し過ぎる。中学生に携帯電話は必要なのだろうか。
 - 子ども3人の年齢差が大きく、子育てに悩み。
 - ストレスの発散が下手。
 - 共働きのため夏休みの過ごし方、ゲーム、勉強などが気にかかる。
 - 子どもの学習意欲を掻き立てるためにも親の役割はどうあればよいか。
 - 部活の友達とのトラブルで不登校気味になった。
 - 学校のことを話してくれない。
 - 姑・夫との仲が良くなく、家庭内別居。
 - 子どもに悪影響がないか心配している。
- 高等学校**
 - 携帯電話の使用が無制限になっている。
 - 共働きのために疲れており、子どもとのかわりもうまくいかない。
 - 夫婦の教育方針のちがいがい。
 - 父親が家庭教育に無関心。
 - 家庭内で親の責任が果たされていないのではないかと。
 - 親の気持ち子どもに伝わらない。
 - 男の子とのコミュニケーションのとり方がむずかしい。
 - 会話が続かない。「フツー」「ベツニ」「アー」のみ。返事をしない。
 - 中学校の時の担任が信用できなくて教員に対する不信感がある。
 - 大学進学について経済的に心配。
 - 子どもに何かをしたいという意欲がないのが心配。

★伊予地域家庭教育支援チームでは、子育てに関する相談窓口を来年度も開設します。お気軽にご活用ください。

中学生 Q.携帯電話の使用について(中1年)



息子に、県外の祖父の家に旅行に行かせるため、その連絡のために初めて携帯電話を与え、そのまま持たせておりましたが、同級生の子とメールアドレスを交換してから、ささいな諍いから相手が誤解し、「死ぬ死ぬ……」といったメールが届くようになりました。相手の親御さんにも伝えましたが、なかなか思うような対応をしていただけませんでした。メールを使ったじめじめなどが報道されていますが、今後このようなことが起こらないか心配です。わが家では、子どもの携帯にはフィルタリングをかけて、メールは親がチェックするようにしていますが、相手から送られてくるものには対処できません。

A. アドバイス
 子どもの携帯電話の使用法や、電子機器を通じた有害情報から子どもを守ることにについては、県や各市町、さらにはPTA団体などでも、大きな問題として取り上げられ対策を検討しています。しかし、どのような対策も、最終的には、保護者の意識の問題に行き着きます。つまり、携帯電話を子どもに持たせることもフィルタリング機能をつけることも、親自身が問題意識を持っていないと第3者が規制することはできない、ということです。
 対応としては、まだ中学生ですし、携帯を持たせないという方法がありますが、それが難しくなかつた変なメールが届くのであれば、アドレスを変更した上で、「メール機能は使わない。」とその友人たちに宣言させてはどうでしょう。携帯は便利な道具ですが、多くの子どもたちは、それを上手に使いこなすことができているようです。道具というものは、必要な時に効果的に使う訓練が大切です。その訓練ができていない者の使用からは、被害が及ばないように避けておくのが賢明です。

幼児期 Q.遊びが勉強?(5歳児)



幼稚園では、遊ぶことが勉強であると聞いており、うちの子も毎日泥だらけになって帰ってきていますが、これで本当に大丈夫なのでしょうか。小学校の勉強は、最初は簡単でも、あつという間に内容が難しくなってきます。また、自由にのびのびとしている園生活に比べ、椅子に座って勉強したり、集団行動で動いたりすることがほとんどだと思えます。このままでは不安です。

A. アドバイス
 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う、という基本的な構えが必要です。そのためには、この時期にあまり一定の知識や能力の伸長を目指すという方向よりは、心身の調和のとれた発達をめざしていくことが重要です。その点から、幼児にとっては、「遊び」という活動が大変重要となってくるのです。「遊び」の活動の中には、自主性・創造性・協調性・創意工夫など、人間が生きていくための諸能力の要素があふれています。この時期に五感を使った遊びを十分に体感した経験は、小学校以上の学校生活や学習活動に必ず生きて働いていきます。ですから、毎日泥だらけになって帰宅するというお子さんは、大変充実した望ましい園生活を送っていると思ってください。
 ただ、ご心配している小学校生活との接続の問題は、幼稚園でも配慮していることではあります。ですから、多くの幼稚園・保育所と小学校では、連絡会や双方の授業(保育)の参観などを開き、連絡調整や情報交換を行っています。また、幼稚園・保育所では、集団活動的な場面の中で規範意識が育つような働きかけを行ったり、遊びの中の自然な流れの中で文字や数の理解や認識に触れるような場面を構成したりしており、これらの内容は、小学校教育での学習内容につながっていきます。しかし、それでもどうしてもご心配なことがあれば、ぜひ、その辺りの疑問や、それぞれの園活動の意味について、幼稚園の先生に尋ねてみてください。

家庭教育・子育て Q&A



このコーナーは、愛媛県教育委員会事務局生涯学習課「えひめ家庭教育の広場」より一部を載せました。詳しくは下記アドレスをお開きください。
<http://ehime-c.esnet.ed.jp/shougai/kateikyoiku/hiroba/shogaku>
 または、[検索](#) 愛媛県教育委員会トップページ → 生涯学習課 → 新着情報「えひめ家庭教育のひろば」

高校生 Q.息子とコミュニケーションがとれない(高1年)



高1の息子は、反抗期のためか、食事とお風呂以外は部屋にこもりつきりで、なかなか会話などもできません。勉強のことや友人のことを尋ねても、うつとうしがるようにして話してくれませんが、気分を害するのともうかと思ひ、声を掛けるのも遠慮するようにしています。こんな状態が続くと、私の方がノイローゼになりそうです。

A. アドバイス
 この時期の男の子は、その程度の差はありますが、親に対してそっけない態度を取ったり、時に反抗的な言動を見せたりするものです。自意識が高くなっている時期で、親に対し照れがあつて素直になれなかったり、自分のことをあれこれ言われることに嫌悪感を持ったりすることも多いのです。しかし、ここを乗り越えることにより、大人としての自覚や責任感が徐々に育っていくわけです。
 この時期の親としての接し方ですが、基本的には必要以上に気をつかすぎないことです。親として言うべきことはきちんと伝え、お父さんを決して家庭内の「王様」にさせてはいけません。ですから、細かいことには小言は控えるにしても、時にあまりに礼を失する態度を取った時には、きちんと叱ることも大切です。そして、この場合は、決してこちらからは逃げるようなそぶりをせず、真正面から対応し、本気で向き合っている姿勢を示すことが重要となります。
 ただ、息子さんの状況がつかめにくいのは心配ですね。この、親との会話を避ける様子が、単なる青年期としての対応ならいいのですが、友人関係等の悩みからくる深刻な事態の場合もあります。学校の先生に学校生活の様子をお伺いすること、上に兄弟がいるのなら、それとなく聞いてもらうとかの方法で様子を確認してみてくださいはどうでしょうか。

小学生 Q.夫(父親)の教育への協力が得られにくい(小4年)



夫婦共働きです。夫が、子どもへの教育(しつけ)に関心がなく、家事もほとんどしてもらえません。そのため、子育てに関する全てのことが私への負担となっています。まれに、夫に子どもを預けてストレス解消に出かけますが、帰宅すると、入浴・歯磨きなどもさせず、服のまま眠らせていたりします。そして、その様子を見てまたストレスがたまってきます。他のご家庭の様子を見ても、子どもの病気・通院、学校行事など、女性(母親)ばかりが忙しかつており、私の家庭だけの問題ではないようにも思います。男性がもっと子育てに参加してくれるような社会となつてくれることを切に望みます。

A. アドバイス
 内閣府の行った「男女共同参画社会に関する世論調査(H19.8)」によりますと、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という設問に対し、「賛成」+「どちらかといえば賛成」とする人の割合は44.8%という結果が出ております。
 また、その調査を裏付けるようなものとして、同じく内閣府が行った「低年齢少年の生活と意識に関する調査(H19.3)」によりますと、小学校4年生から中学校3年生までの保護者に対するアンケートの中で、「職業と育児のバランス」についての設問に、「育児よりも職業を優先したい」と答えた人は、母親が1.3%に対し、父親は24.5%となっております。
 平成11年に男女協同参画社会基本法が制定され、すでに10年目が来ようとしているのですが、私たちの社会は、まだまだこの法律の精神を実現しているとはいえないようであり、「男は仕事、女は育児」という意識が根強く残っているとさえ言えます。
 ご質問の内容は、社会全般にこのような風潮と、ご自身のご家庭のこの両面があると思いますが、社会全般の面については、「次世代育成支援対策推進法」により、301人以上の労働者を雇用する事業主は、次の世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境をつくるための行動計画を定めることとされており(300人以下の労働者がいる事業主には努力義務)、その行動計画策定のポイントの中には、子育て支援に係るさまざまな内容があります。ご主人の勤務先にも何らかの子育て支援に関する環境整備がなされていると思いますので、是非活用できるように働きかけてみてはどうでしょう。
 ただ、やはり問題の本質は、ご主人を含めた男性(父親)の意識にあると思います。現在、各PTA連合会では、各種会合等で父親の家庭教育参加を積極的に呼びかけているとともに、県下の多くの小・中学校では、これまでのPTA活動等が、女性に偏りがちであったという状況もあったことから、父親の積極的な教育参加の輪を広げるための組織として、「おやじの会」が結成されています。ご家庭で、子育てについて共に話し合うことはもちろんのこと、お子さんの友だちの父親等と交流を深め、共に参観日等に積極的に参加してもらえようしたり、この「おやじの会」などへの参加を進められたりしてはどうでしょう。
 なお、県下の「おやじの会」の情報につきましては、愛媛県教育委員会事務局生涯学習課のホームページに掲載しております。「愛媛おやじの会ネットステーション」にてご紹介しています。

がっちり、あく手 「ファミ♥サポ(ファミリーサポートセンター)」は伊予地域家庭教育支援チームと連携しています!



“子育てを楽しむ”そんな気持ちの余裕なんて…と思いませんか?一人で何もかも抱えてしまつては、身動きがとれなかつたり息詰まったりしますよね。そんな時、ほんの少しの手助けがあれば、「がんばろう!」って思えて、元気がでることがありますね。

ファミリーサポートセンター「ファミ♥サポ」は、子育ての手助けをしてほしい人と、お手伝いしたい人が会員として登録をし、子育てに関する有償の援助活動をするところです。年齢は6ヶ月から12歳までの子どもが対象です。援助は原則として、まかせて会員の自宅で行います。ボランティアの気持ちで、会員が活動しているため当日の依頼でも対応できています。200名程度の会員登録ですが、現在は必要な人が必要な時だけ利用してきています。利用した後は、「助かりました」「ありがとう」という感謝のお言葉をいただきます。お互いによりよい関係を築いていきたいと考えております。

伊予市に住んでよかつたと思えるような“安心して子育てができるまちづくり”をこれからも、みんなと一緒にしていきたいと思っています。

